

小学校 第6学年 A 体づくり運動 イ 体の動きを高める運動

単元の目標

知識及び技能	運動の行い方を理解するとともに、ねらいに応じて体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動ができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	体の動きを高める運動の学習に積極的に取り組むとともに、仲間の考えや取組を認めること、場や用具の安全に気を配ることができるようにする。

	1	2	3	4	5	評価規準
ねらい	運動の行い方について理解するとともに、自己の課題を見付けることができる。	運動の行い方を工夫しながら4つの動き（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力）を高めることができる。	あいつつ・準備運動・本時のねらいの確認 共：(1) 仲間と運動を楽しむための教材の工夫 ※アイデアストレッチ⇒グループで円になって一人ずつどんなストレッチをするかを言う。	力強い動きを高めるための運動に取り組む。 ○うで立てふせ ○人運び ○引っ張合い など 動きを持続する能力を高めるための運動に取り組む。 ○連続なわとび ○エアロビクス ○わくわくランニング	○仲間と運動を楽しみながら、動きの高まりを実感することができる。	【知識・技能】 ①体の動きを高めるための運動の行い方について書いている。 ②体の各部位の可動域を広げる体の柔らかさを高めるための動きができる。 ③タイミングやバランスよく動く、リズムカラルに動く、力の入れ方を加減するなど巧みな動きを高めるための動きができる。 ④自己の体重を利用してたり、人や物等の抵抗に対してそれを動かしたりして、力強い動きを高めたりできる。 ⑤一定の時間続けて行ったり、一定の回数を反復して行ったりする動きを持続する能力を高めるための動きができる。
導入	準備運動をする。	体の柔らかさを高めるための運動に取り組む ①物を使わずに ②ボールを使って ③棒を使って 巧みな動きを高めるための運動に取り組む ○2個のボールをつく ○棒が倒れないうちに回転や移動 ○後ろ歩きとび ○転がしたフープをくぐる	体の柔らかさを高めるための運動の条件を変えて取り組む (条件) ○動く範囲 ○ボールの大きさ ○棒の長さ など 巧みな動きを高めるための運動の条件を変えて取り組む (条件) ○タイミングをずらす ○移動距離 ○数を増やす など	力強い動きを高めるための運動に取り組む。 ○うで立てふせ ○人運び ○引っ張合い など 動きを持続する能力を高めるための運動に取り組む。 ○連続なわとび ○エアロビクス ○わくわくランニング	○1時間目と同じ体力の測定（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力）を行い、どんな体力が高まったか見付ける。	【思考・判断・表現】 ①自分の体力に応じて運動の行い方を選んだり、工夫したりしている。 ②体の動きを高めるために工夫したことを、仲間に伝えている。
展開	今後の学習の見通しをもつ ○体力の測定（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力）を行い、今の自分の体力の特徴を見付ける。	共：(1) 仲間と運動を楽しむための教材の工夫 ・いろいろな運動を準備する。	共：①運動を楽しみながら動きを高めるために、どのような工夫が必要か考え、活動を位置付ける。 ②考えたことを伝え合い、全体で共有する。	共：自分の動きに合った運動に取り組むことができるように、いろいろな運動を準備する。	学習のふりかえりをする。 ○単元を通して高まった動き ○なぜそれが高まったか	【主体的に学習に取り組む態度】 ①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 ②運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認め合おうとしている。
終末	これからのめあてを決める。 ○これからの学習でできるようになりたいこと	学習のふりかえりをする。 ○できるよようになった動き（高まった動き）	学習のふりかえりをする。 ○動きが高まるために工夫したこと	学習のふりかえりをする。 ○できるよようになった動き（高まった動き）		
知識・技能		②③		④⑤	①	
思・判・表			①		②	
主	①					

仲間と運動を楽しむ教材の工夫と教師の意図的な発問を通して
 小学校第6学年 A 体づくり運動 イ 体の動きを高める運動

1 単元目標

- 運動の行い方を理解するとともに、ねらいに応じて体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動ができるようにする。 【知識及び技能】
- 自己の体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 体の動きを高める運動の学習に積極的に取り組むとともに、仲間の考えや取組を認めること、場や用具の安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

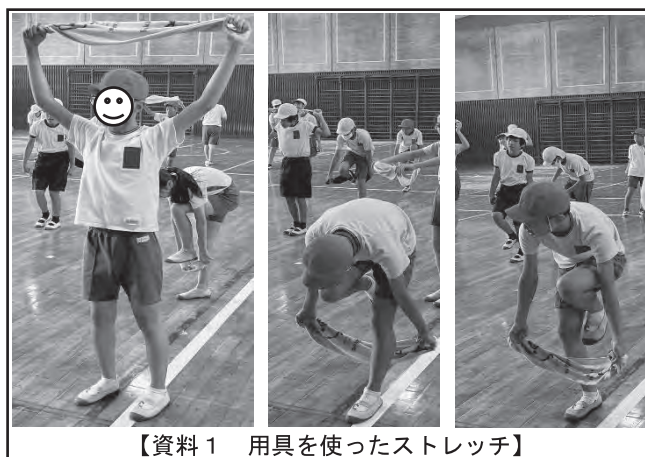
(1) 仲間と運動を楽しみながら動きを高めるための教材の工夫や話し合い活動の位置付け

本学習は、単元を通して、仲間と運動を楽しみながら、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めていくために、教材の工夫や毎時間話し合い活動を位置付けて学習を行った。

①仲間と運動を楽しむための教材の工夫

仲間とコミュニケーションをとりながら心と体をほぐすために、ペアやグループで準備運動を行うようにした。まずは、教師が提示した

【資料1】のような、タオルを使った運動やストレッチに取り組み、その後、グループで円になって他にどんな工夫ができるかを話し合いながら行った。単元を進めていくと、子供は、タオルを持つ手の幅を短くするなど用具を調節したり、一人だけでなく二人でするストレッチを考えたりして、ペアやグループで楽しく準備運動に取り組む姿が見られた。



【資料1 用具を使ったストレッチ】

また、主運動では、子供の実態を踏まえ、全ての子供が簡単にできる運動を提示し、ペアで取り組むようにした。

【資料2】は、座った状態から体を後ろに反らす動き、【資料3】は、棒が倒れる前に一回転する動きがある運動である。子供たちは、互いの動きを見合いながら、「～の位置まで体を反ることができるか見ていて」や「この動きは、上手くできるから見て」と声をかけて、楽しく運動に取り組む様子が見られた。



【資料2 体の柔らかさ】

②仲間と運動を楽しむための教師の意図的な発問

仲間と運動を楽しむために、教師が提示した個人でできる運動に取り組んだ後に「グループの仲間と一緒にできないか」と発問を行った。

【資料3】の運動に取り組んだ時は、「みんなで円になってできそう」や「縦一列に並んでやってみよう」などと言って、【資料3】の運動から【資料4】のように運動を工夫して、仲間と試行錯誤しながら何度も運動に取り組む姿が見られた。



【資料3 巧みな動き】



【資料4 自分達で工夫した運動を楽しむ子供】

また、縄跳びを使った学習の時は、【資料5】のように二人組で交互に跳んだり、【資料6】のようにグループの仲間と一列に並んで跳んだりして、仲間と楽しみながら運動に取り組む姿が見られた。



【資料5 自分達で工夫した運動を楽しむ子供】

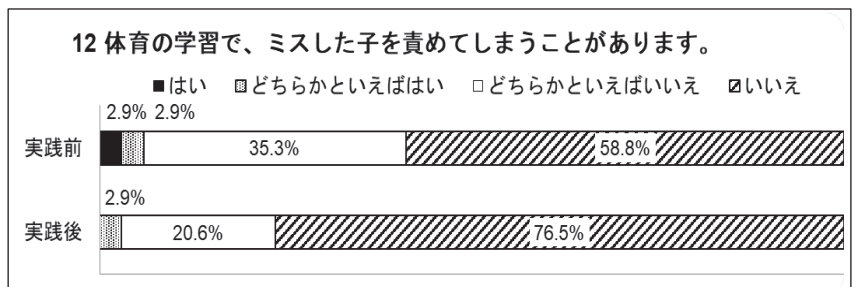


【資料6 自分達で工夫した運動を楽しむ子供】

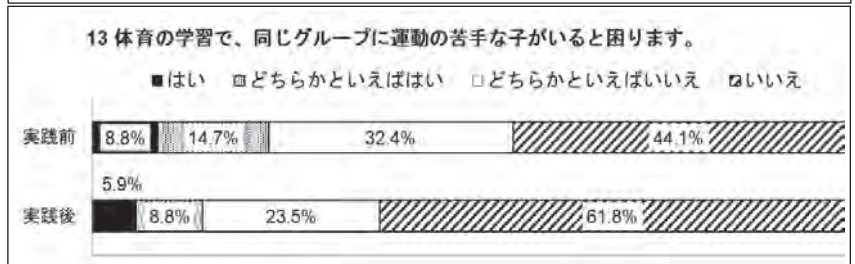
3 成果と課題

(1) 成果

単元実施前後に行った「体育の学習に関する児童アンケート」において、「体育の学習で、ミスをした子を責めてしまうことがあります」という項目で、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と回答している子供が増えている【図1】。また、「体育の学習で、同じグループに運動の苦手な子がいると困ります」という項目で、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と回答している子供が増えている【図2】。これは、ペアやグループで運動を楽しむことができるような教材の工夫を行ったり、仲間と運動を楽しむために意図的な発問を行ったりしたことが有効に働いたからだと考える。



【図1 体育の学習に関する児童アンケートの結果】



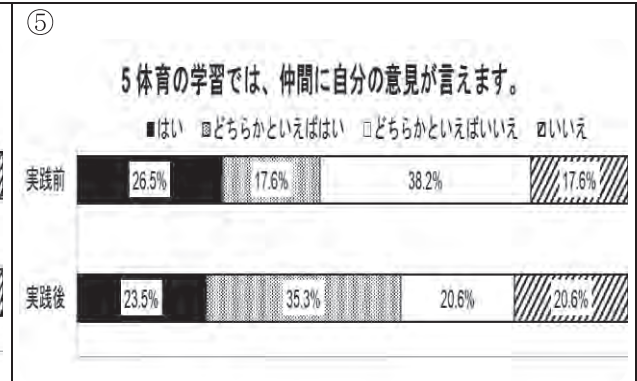
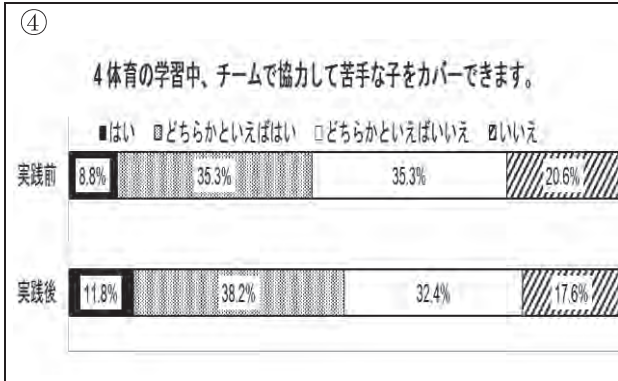
【図2 体育の学習に関する児童アンケートの結果】

(2) 課題

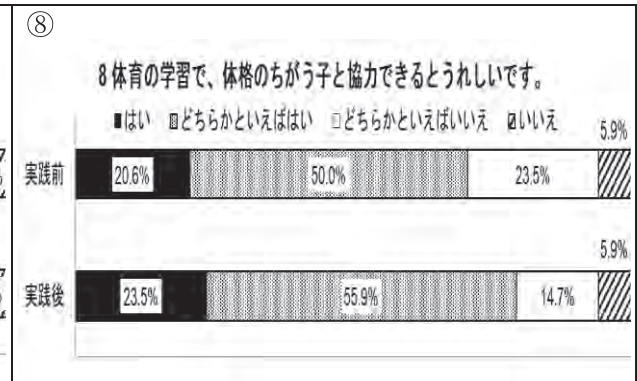
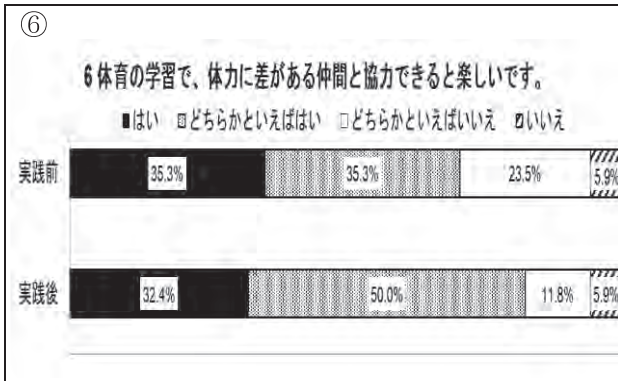
子供が主体的に運動の仕方を工夫しながら、より運動の楽しさに触れることができる手立てについて今後工夫する必要がある。

【児童生徒の変容】

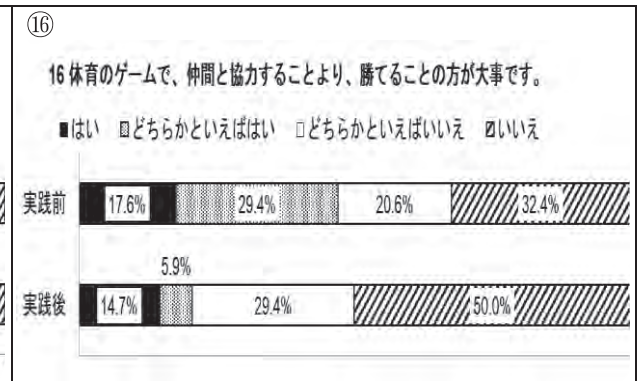
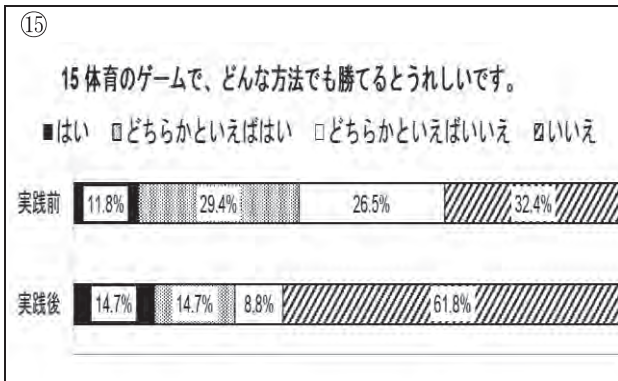
〔Ⅰ リーダーシップ〕



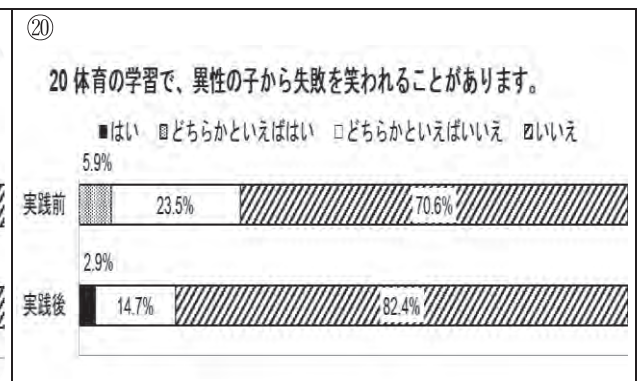
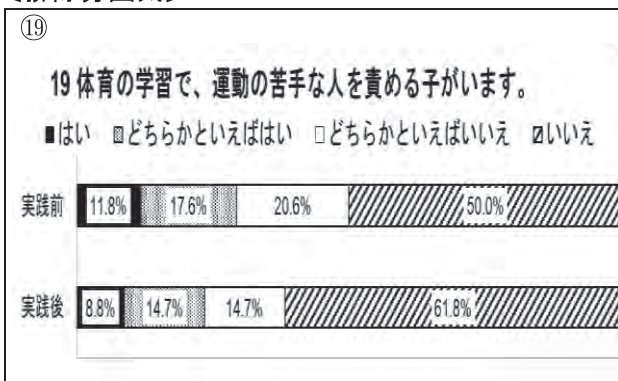
〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅴ 過度な勝利志向〕



〔排除雰囲気〕



【授業実践協力者の声】

実践を通して、男女間の人間関係がよくなりました。運動が苦手な子供から「次の体育はいつ？早くしたい」と言われ、嬉しかったです。共生体育は体育だけでなく、学校生活のいろいろな場面につながっていると感じました。

